

みやこ

京の生きものの生息調査

レポート 2020



京都市では、緑や水辺の豊かさ等の自然環境の現状を把握するため、市民の皆様にご協力いただき、市内で見られるツバメ等の生息状況を調査する「京の生きものの生息調査」を実施しています。

2ページに調査結果や考察を、3ページ以降にそれぞれの種の調査結果をまとめていますので、御覧ください。

本調査に多くの生息情報が集まることで、京都市の自然環境の「いま」が分かり、自然環境を守るための取組につなぐことができます。

本調査は今回が2回目で、今後も継続する予定ですので、是非御参加ください!

調査期間

令和2年5月7日～11月30日

(ただし、4月1日～5月6日に発見されたものも報告対象としました。)

調査種について

次の2点から、ツバメ、ハグロトンボ、カワセミ、セミの4種を調査種に選定しました。

- ・多くの方が調査に参加しやすいよう、親しみがあり、見つけやすい種であること
- ・生息状況を調べることで、自然環境の状態が分かる種であること

ツバメ



ツバメの居場所を調べることで、巣の材料となる泥や草、エサとなる虫が捕れる畑や水田、水辺の広がりが分かります。

ハグロトンボ



ハグロトンボの居場所を調べることで、水草の豊かな水辺と緑地の広がりが分かります。

カワセミ



カワセミの居場所を調べることで、エサとなる小魚が暮らせる水辺の広がりが分かります。

セミ



どこにどんなセミがいるかを調べることで、その周辺の自然環境が分かります。

【市街地でよく見られるセミ】

クマゼミ、アブラゼミ

【里地里山でよく見られるセミ】

ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ

調査結果

- ・ツバメは243件、ハグロトンボは62件、カワセミは19件、セミは160件で、4種合わせて484件の報告がありました。
- ・ツバメは4～6月、ハグロトンボは6～9月、セミは7～9月を中心に報告がありました。カワセミは時期を問わず報告がありました。
- ・カワセミを除く3種は市内で広く報告がありました。カワセミは周辺部の水系を中心に報告がありました。

考察

市街地においても鳥・昆虫が生息できる緑地や小魚が住める水辺が広がっていること、また、街路樹や田畑の用水路なども生きもののすみかになっていることが分かりました。

また、生きものが生きるためには「住」だけでなく「食」のためのエサも必要であるため、調査種のすみかの付近には、食物連鎖の中で調査種と食べる・食べられる関係でつながっている生きもの達も生息していると考えられます。

ツバメ

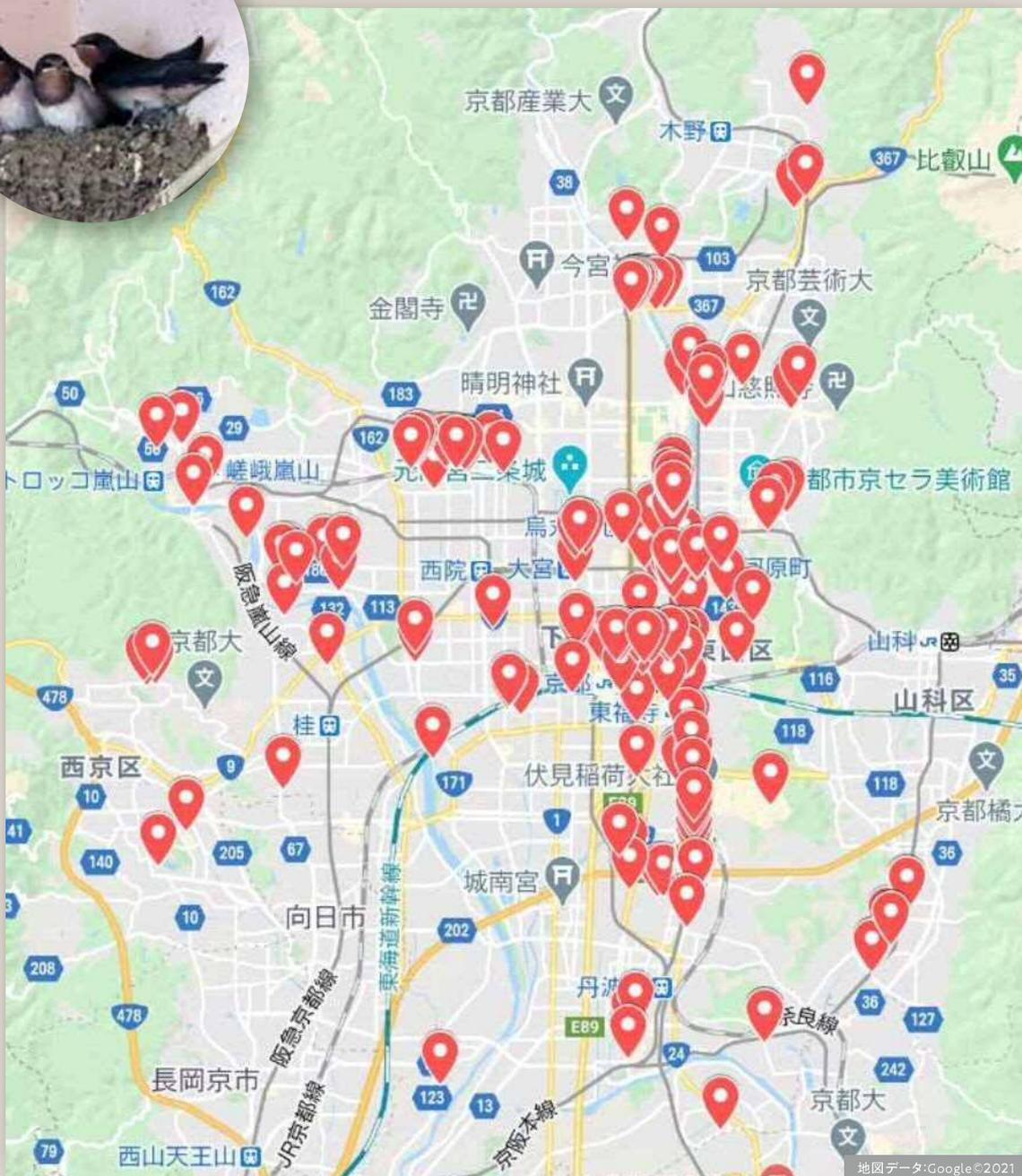
報告があった場所



報告件数

243件

発見日：2020/5/4
場所：四条寺町付近



ツバメの報告があった場所

分かること

- ・鴨川周辺を中心に、市内の広い範囲で報告がありました。
- ・山中や里地よりも市街地からの報告が多くありました。

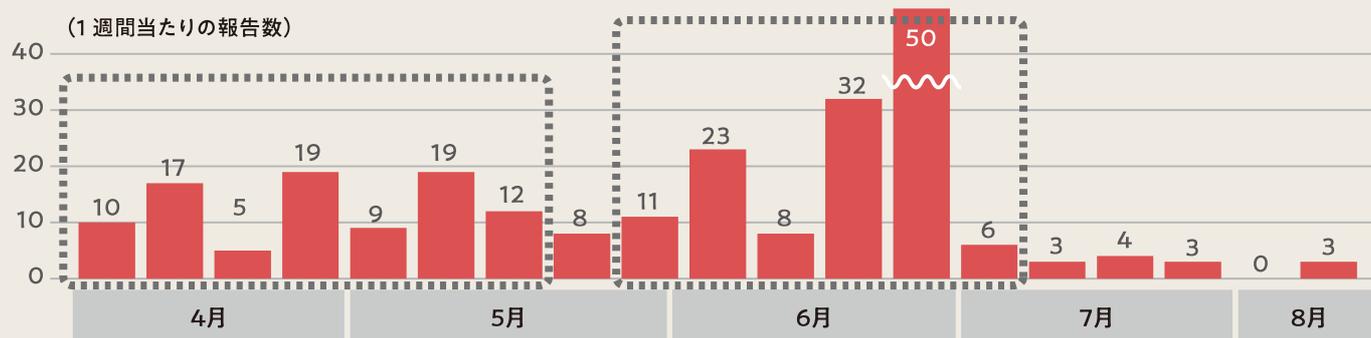
ツバメ

分かること



報告時期から分かること

4月下旬と6月下旬を中心に報告が多い時期がありました。この時期はツバメが子育てする時期と重なっており、ヒナの鳴き声や餌やりでツバメの巣に気付きやすいことが多くの報告につながったと考えられます。また、一つの巣で異なる時期に子育てをしているという報告や、巣が一度壊れた場所に再度巣を作り、子育てをしているという報告もありました。



どんな場所に巣を作るか

- ・人通りの多い商店街や市役所周辺などから多くの報告がありました。これは人通りが多い場所に巣をすることで、人間の存在によって、カラスなどの外敵から巣を守っているためと考えられます。
- ・また、家や店の1階部分の軒、ひさし、オーニングに作られた巣の報告が多くありました。これは、雨をしのげ、外敵から巣を守るのに適しているためと考えられます。
- ・一般にツバメは一度の産卵期に平均3~5個の卵を産むと言われており、実際に3, 4羽のヒナがいる巣の報告が多くありました。中には6羽のヒナを育てている報告も複数ありました。
- ・商店街では、前年の報告場所のすぐ近くからの報告がありました。ツバメは、壊れていない古い巣を補修して使う習性があり、もしかすると、前年のツバメが帰って来ているのかもしれませんが。



店舗のオーニングに作られた巣



6羽のヒナ



巣を作りやすい民家や巣の材料（泥や草）をとる田んぼが少なくなったことに加え、フンなどを嫌がって巣を落とされたりすることもあり、ツバメは子育てがしづらくなっているとされています。子育て中のツバメを見つけたら、優しく見守ってあげましょう!!

ハグロトンボ

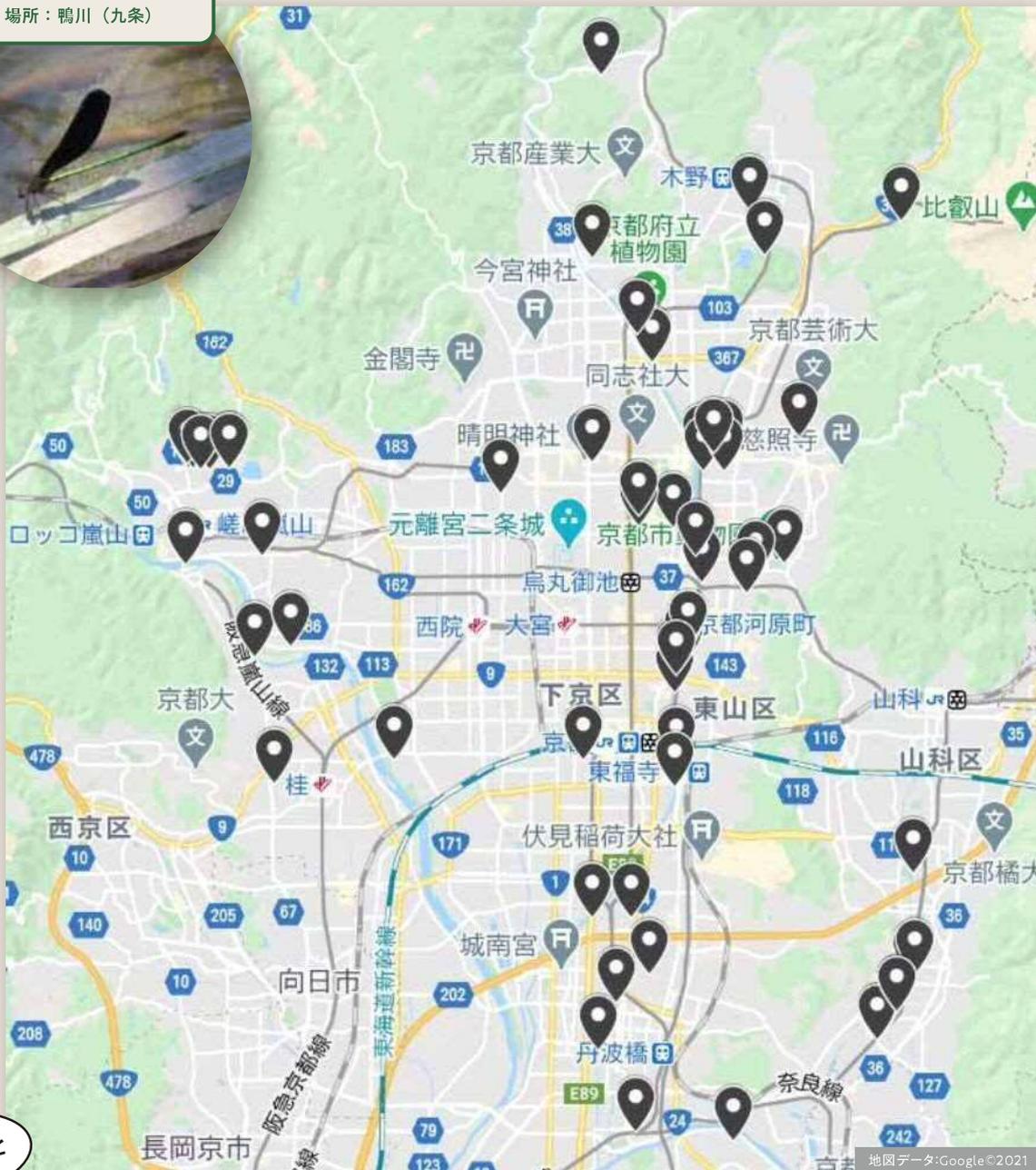


報告があった場所

報告件数

62件

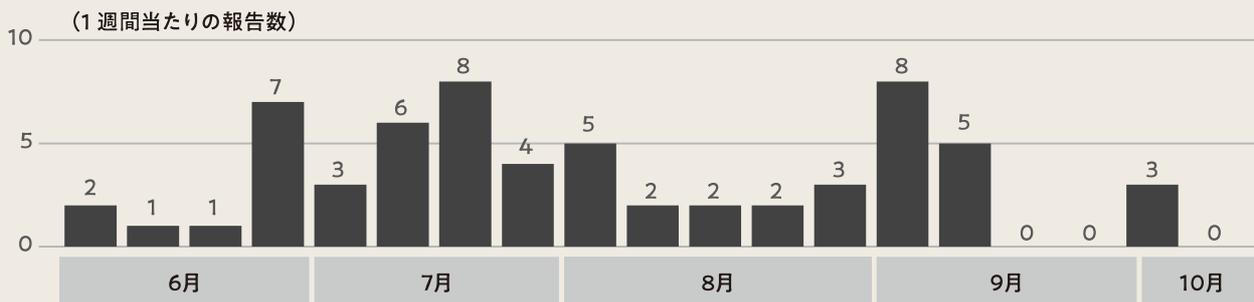
発見日：2020/7/19
場所：鴨川（九条）



ハグロトンボの報告があった場所

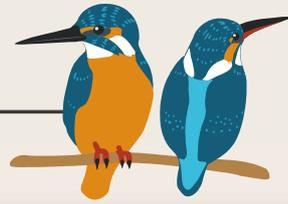
分かること

- ・河川だけでなく、公園や田畑の用水路からの報告もありました。公園や田畑の周辺にも水草の豊かな水辺と緑地が広がっていることが分かりました。



カワセミ

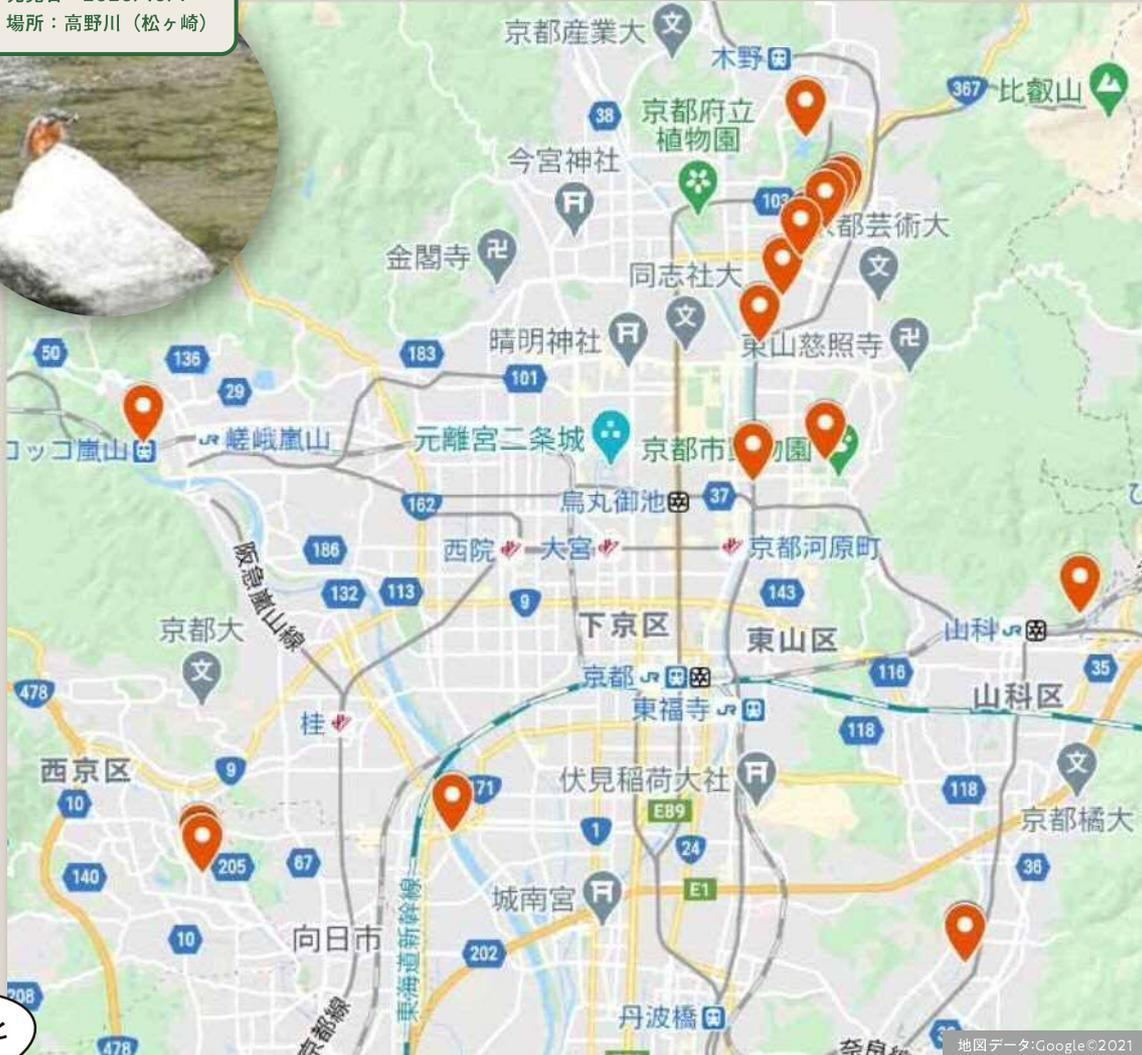
報告があった場所



報告件数

19件

発見日：2020/10/7
場所：高野川（松ヶ崎）



カワセミの報告があった場所

分かること

- ・高野川，鴨川，桂川，小畑川，山科川などの河川や宝が池，平安神宮神苑などの池から報告がありました。
- ・カワセミは縄張り意識が強く，同じ場所で見られると言われます。高野川では，狭い範囲で複数回の報告があり，その傾向が確認されました。

(1週間当たりの報告数)



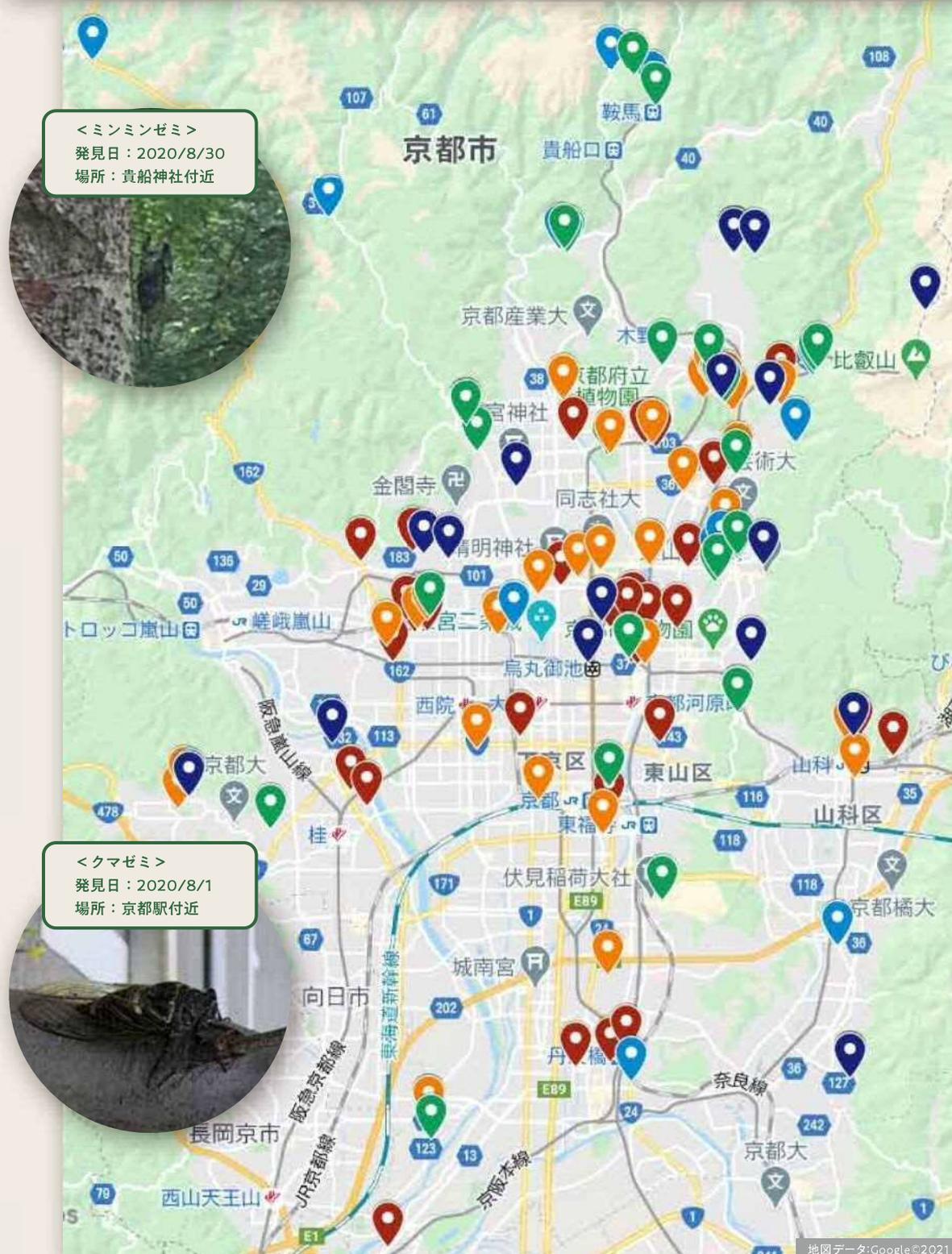
観察するときは，大きな音を出して驚かしたり，立入禁止の場所に入ったりしないで，マナーを守ってそっと観察しましょう!!

ゼミ

報告があった場所

報告件数

160件



<ミンミンゼミ>
 発見日：2020/8/30
 場所：貴船神社付近



<クマゼミ>
 発見日：2020/8/1
 場所：京都駅付近



-  ヒグラシの報告があった場所
-  ミンミンゼミの報告があった場所
-  クマゼミの報告があった場所

-  ツクツクボウシの報告があった場所
-  アブラゼミの報告があった場所

セミ

分かること



種による報告場所の比較から分かること

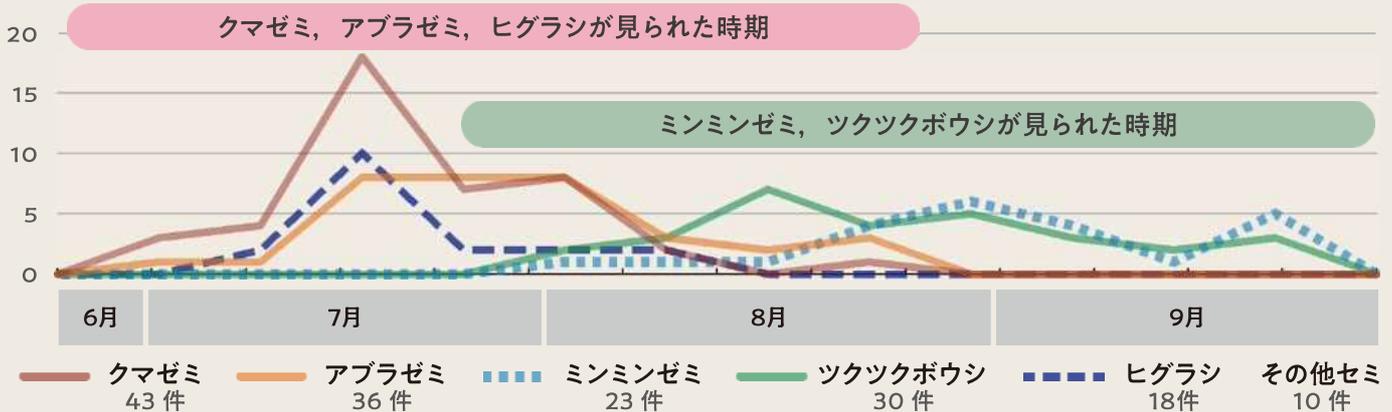
- クマゼミとアブラゼミは、市街地からの報告がほとんどで、街中にある街路樹や小学校などでの報告が多くありました。これら2種は、「高温・乾燥に強い」と言われているため、街中での報告が多かったと考えられます。
- ミンミンゼミやツクツクボウシ、ヒグラシは、市街地では比較的緑地が多い公園や社寺などでの報告が多く、また、里地や山間部での報告もありました。これら3種は、「里地などの涼しい緑地を好む」と言われているため、緑地の多い場所での報告が多かったと考えられます。
- 多くの種のセミが生息している地域は、多様な自然環境が広がっていると考えられます。

例えば、左京区の宝が池では、住宅地の近くに宝が池公園（池や森）があり、高野川が流れています。セミの調査では、全ての調査対象種の報告があったことから、宝が池は多様な自然環境が広がっていると考えられます。



報告時期から分かること

(1週間当たりの報告数)



- クマゼミとアブラゼミ、ヒグラシは7月初旬から8月下旬まで、ミンミンゼミとツクツクボウシは、8月初旬から9月下旬まで報告がありました。
- セミの成虫は、約1箇月の短い寿命で子孫を残すために、種によって鳴く時間を変えて、オスとメスが出会いやすくしていると言われています。セミによって発生時期が異なることは、子孫を残すための生存戦略の一つかもしれません。